

第18回全国消防救助シンポジウムの開催

参事官

平成27年12月18日（金）、「御嶽山噴火災害を踏まえた山岳救助活動について」をテーマに、第18回全国消防救助シンポジウムを東京都千代田区の日比谷公会堂において開催しました。

佐々木敦朗消防庁長官の開会挨拶（次頁に掲載）の後、心臓血管センター北海道大野病院循環器内科医師の大城和恵氏に「山岳遭難救助活動における救助隊員の安全～噴火災害対応と登山ブームに伴う遭難対策～」について、講演を行っていただきました。

講演に引き続き、次のとおり山岳救助に関する特別報告1件、事例研究発表6件、平成26年の救助技術の高度化等検討会報告書を踏まえた実証訓練の特別報告1件が発表されました。

【特別報告①】

上條 信男 氏（松本広域消防局）
「御嶽山噴火災害活動について」

【事例研究発表】

両角 剛 氏（東京消防庁）
「御嶽山噴火災害に係る活動記録と検証について」
岩佐 信二郎 氏（川崎市消防局）
「箱根山の噴火想定に対する航空機活動シミュレーションについて」
木村 直広 氏（南魚沼市消防本部）
「バックカントリーでの遭難事故に対する取り組みについて」
松尾 宏一 氏（大津市消防局）
「遭難から5日後の生存救出事例について」
山本 翔人 氏（砺波地域消防組合消防本部）
「山岳遭難における対策と対応」
末崎 貴士 氏（久留米広域消防本部）
「山岳救助における傷病者の長距離搬送について」

【特別報告②】

田中 智也 氏（大阪市消防局）
「埋没要救助者の救出要領について」



大城和恵氏の講演



総合討論

最後の総合討論では、講演者、特別報告者、事例研究発表者、更には会場の出席者を交えて「特殊な環境を踏まえた山岳救助活動について」をテーマに活発な意見交換が行われました。

本シンポジウムは、全国各地から約2,000名の消防防災関係者が一堂に会し、お互いの経験や新たな取組に関する情報の共有化が図られ、大変活気のある有意義なものでした。本シンポジウムが我が国の救助体制のなお一層の充実に寄与することを期待します。

佐々木消防庁長官の開会挨拶

第18回全国消防救助シンポジウム開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

全国各地から2,000名を超える多数の消防関係機関の方々をお迎えして、このシンポジウムを開催できますこと、心から感謝申し上げます。

また、ご講演をいただく大城先生をはじめ、特別報告、事例研究発表などをいただく皆様にも厚く御礼を申し上げます。

今回のシンポジウムのテーマとなっています昨年9月の御嶽山噴火災害では、多くの登山者が犠牲となり、標高3,000メートルを超える急峻な場所で、また火山性微動や火山ガスのある非常に過酷な環境下において、救助隊員による懸命な救助活動が展開されました。

近年においては、この他にも地震や風水害など様々な災害が発生しており、本年9月の関東・東北豪雨災害では、鬼怒川の堤防決壊により濁流が押し寄せる中、消防防災ヘリなどによる迅速な救助が行われました。

救助隊員の皆様には、常に災害の最前線において懸命な活動を行って頂いており、消防の救助活動に対する国民の信頼と期待はますます高いものとなっています。

今年は、阪神淡路大震災を契機に緊急消防援助隊が発足して20年となります。現在までに全国で約5,000隊が登録され、あらゆる災害に全国の消防力を結集して対応する体制が出来てきておりますが、今後さらに南海トラフ地震や首都直下地震への備えを進める必要があります。

また、世界的にテロの脅威が高まる中、来年5月には「伊勢志摩サミット」の開催が予定されており、



佐々木消防庁長官の開会挨拶

その後も「ラグビーワールドカップ2019」や、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」など大規模イベントが予定されております。今後、テロやNBC災害への対応力についてもさらに強化を図っていく必要があります。

消防庁といたしましては、緊急消防援助隊の充実強化、常備消防力の整備、消防団を中核とした地域防災力の拡充など、消防防災体制の一層の強化に努めて参る所存であります。

全国の消防機関の皆様におかれましても、平素から備えをより強固なものとし、様々な災害に対して万全な体制をとっていただきますことをお願い申し上げます。

今回のシンポジウムが、救助に携わる皆様の貴重な情報共有の場となりますとともに、救助能力の向上に大いに寄与することを期待しております。

結びに、全国の消防関係機関のますますの御発展と皆様方の御健勝を祈念いたしまして、挨拶といたします。

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部参事官付 峰松
TEL: 03-5253-7507